

## 【会議録要旨】

会 議 名	第3回敦賀市地域福祉計画策定委員会
日 時	令和元年11月20日（水） 午前10時から午後0時
場 所	敦賀消防庁舎 3階講堂
出席委員	出席委員：12人 永井委員長、米島副委員長、藤田委員、大野委員、中村委員、大塚委員、高木委員、橋本委員、横井委員、宮崎委員、室委員、板谷委員 欠席委員：1人 竹田委員
	事務局：10人 福祉保健部：川口健康センター所長、川久保国保年金課保険給付係長、櫻井児童家庭課長、石丸長寿健康課長、野瀬子育て総合支援センター所長 地域福祉課：團田課長、山本課長補佐、梅野課長補佐、上野主事 業 者：(株)名豊
議 題	① 追加アンケート調査結果について ② 骨子案の検討について
議論内容	(1)10月31日から11月11日まで実施した追加アンケート調査の結果報告について、次のような意見があった。 ※アンケート内訳 ○個人：120名（市内在住の中学3年生から高校3年生までを無作為抽出） ○団体：8団体（市内の障害関係団体） ・ 地域の課題や福祉などに対して、自分の目線で考え、記述している学生が多数いたが、障がい者やボランティアなど関心が薄かった分野について、今後どのように取り組んでいくのか。 ⇒ 次世代の担い手を増やすためにも、普段の暮らしの中における地域福祉について、体験や意見交換を行う地域づくりを推奨していくことが必要であり、理解しやすい形の情報発信など周知方法について見直しが必要 (2)骨子案の検討について、次のような意見があった。 ・ 基本目標を、誰が見てもイメージしやすいよう言葉や文章を見直してはどうか。 ・ 生活を支える「地域課題」の一つとして、移動手段の不足も考えられる。 ・ 福祉の重要性や大切さを知る機会が少ないため、自分が当事者になった際に、どこに何を聞けばよいか分からない。 ・ その地域に合った支援を行っていく必要があるのではないか。 ・ 市と市社協が連携し、または協力するうえで役割分担するなどの仕組みを作れば、福祉に対する情報不足を補えることもある。

	<p>⇒ 「助け上手」や「助けられ上手」のように、自分の声が届きやすい地域づくりを目指すため、地域での支え手を増やし、地域の協力体制を整えることが必要</p> <p>(3)その他、次のような意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 高齢者が引き起こす事件や事故をなくすために、原因を分析したうえで福祉に対する支援（受け入れ可能な施設を増やす等）の施策を考えるべきではないか。</li><li>・ 施設に入れない場合、経済的な理由も考えられるため、生活困窮者を生まない支援や相談窓口を広げるなど行ってはどうか。</li></ul>
次回予定	日時：令和2年1月20日（月） 午後2時から午後4時まで 場所：敦賀市役所 4階講堂